琉球大学学術リポジトリ

[研究ノート] 中国の人々からみた“台湾”：市販地図の一考察

メタデータ	言語: ja 出版者: 沖縄地理学会 公開日: 2018-11-16 キーワード (Ja): 市販地図, 社会教育, 台湾, 尖閣諸島, 魚釣島, map on the market キーワード (En): social education, Taiwan, Senkaku islands, Uotsuri-jima 作成者: 金城, 英樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017756

沖縄地理　第 13 号
61-68 頁　（2013）

Okinawa Journal of Geographical Studies
No.13, p.61-68　（2013）

中国の人々からみた“台湾”
—市販地図の一考察—

金 城 英 樹
（沖縄大学・非）

The People’s View of “Taiwan” in China:
Consideration of the Map on the Market

Hideki KINJO
（Okinawa University）

摘　要

中国では“台湾”の範囲はどのように捉えられているのだろうか．筆者はこれまでに中国の学生が捉えている“琉球”とは“台湾”を指すことを明らかにした．そこから疑問に思ったことは，その“台湾”の範囲について，現在の中国ではどう捉えているのかということである．今回は学生ではなく一般の人々を調査対象としたが，彼らの生の声を聞くことは困難である．そこで一般の人々の持つ（得られる）“台湾”の範囲についての認識をうかがうことができると考えられる市販の旅行雑誌およびガイドブック等の地図が載せられている書籍を調査対象とした．その結果，台湾島はその大きさから認識することが容易であるが，“台湾”を構成する島々の記載は統一されていないことが分かった．

キーワード：市販地図，社会教育，台湾，尖閣諸島，魚釣島
Key Words: map on the market, social education, Taiwan, Senkaku islands, Uotsuri-jima

Ⅰ　はじめに

筆者は『中国の学生からみた“琉球”』（金城 2011）で，中国では大学生を中心に“琉球”≒台湾であり，中国の領土という認識があることを明らかにした．このことと 2010 年に尖閣諸島中国漁船衝突事件が起きた後中国で行われた「保釣運動」とを合わせて考えたときに，中国では一般的に「台湾」の範囲はどう認識されているかという疑問が出てきた．

東（1971：28，33）によれば，地図を利用した地名探しは，個々的で他との関連性に乏しい反面，児童・生徒が興味をもち易い．ただし学習者の地図帳などへの意識調査によると，これにより全体を推察することは困難ではあるが，彼らの認識に役立つと考えられる．筆者は中国で日本語教師をしていたときに，授業の一環として地図を使って日本や中国の地名，世界の国名を扱ったことがある．実際には学生に中国の地図を見せながら，日本語で「北京」・「上海」・「深圳」・「“台湾”」などの位置を指すように指示した．すると学生たちは中国地図を縦横無尽に指でなぞり，クラスメートからの中国語でのアドバイスを聞きながら，どうにか指示された地域を指すことができた．しかし学生によっては海南島を指して「台湾はここです」などということもしばしば見受けられた．筆者はこのような学生達や現地の人々との交流から，彼らは何という地域がどこにあるかということをあまり意識しておらず，自分の生活圏さえ把握しておれば，東西南北でさえどうでもよいと考えているように見えた．

2010 年の尖閣諸島中国漁船衝突事件以降の反日

デモ以降，筆者は中国人が魚釣島を台湾の付属島嶼だと主張していても，はたして大陸の人々が，あのような小さな島を把握している人がいるのだろうかという疑問をもつようになった．そこでその事件以降は，教室の内外で機会をみつけては学生に地図を見せながら，筆者自身が日本語と中国語で「魚釣島はどこですか」という質問をした．結果は残念ながら地図を見て即座にその場所を指させる学生には一人も出会えなかった．

さて，中国では大学生に限らず一般の人々も，“台湾”の範囲をどのように捉えているのだろうか．このことについて現地の人の生の声を聞くことは，現実的ではない[1]と考えて，調査の対象を市販の旅行雑誌やガイドブック等，地図が載せられている書籍とした．学校における地理教育として，例えば日本であれば世界の中での日本の位置や，学習項目にある国内の地方（地名）について，視覚で認知してイメージのしやすい地図を併用して学習するのが一般的だと考えられる．以前の研究ではあるが，地図を用いた教育について東（1971:26）は「最近の地図の一般化・大衆化は著しく，この意味でも地図教育の基本的指導が強化されねばならない」と述べている．

また学校教育以外でも，地図は何かの場面で目にする機会があるものであり，特に世界地図を見たときには「我が国はここからここまで」という領土[2]は容易に認識できると思われる．また地図は社会教育の一端として位置づけられる．そこから得られる情報は，一般の人々の持つ（得られる）“台湾”の範囲についての認識をうかがうことができると考えられる．

そこで本稿では中国内で販売されている交通・道路・観光案内等の地図帳を中心に，台湾の範囲を検討する．具体的には図書館，書店に置かれている地図帳を中心に「台湾」もしくは「台湾省」のページに注目して，台湾島を中心に周囲にどのような島嶼が記載されているかをまとめて考察することとする．

Ⅱ　中国の地理教育

地図に関する基礎的な教育は，中国でも日本と同様に学校教育で行われている．また一般の人々を調査対象とするときに筆者が考慮したことは，現在の大学生の親の世代である[3]．一般の人も社会教育として，地図を目にする機会がある．筆者は中国在住中に，書店内で座り込んで本を読む人たちをよく目にした．日本の書店であれば彼らは歓迎されない客かもしれないが，現地では彼らも立派な客である．筆者は彼らが手に取る書籍も，「社会教育」の一端を担っていると考えている．そこで本章では，現地の大人[4]が受けた（地理的）地図教育について概観する．

1．学校教育（中高）における地図

中国においても「義務」と位置付けられている「教育」は，日本と同様の小中学校である．一人っ子政策を進めてきた，現代中国で大きな割合を占める現在の大学生の両親の年代の学歴は，中学校卒業である．筆者は彼らの学校教育で培われた知識が，一般的な「中国人」のもつ「社会教育」につながっていると考えている．そこで本節では，中学，高校の地理教育（地図）について概観する．

中学，高校の歴史・地理教科書を開いてみると，台湾およびその附属島嶼について筆者が管見した限りでは，これらが記載されているのは，必要最小限に抑えられているように見える．

地図については七年級の教科書『地理』上冊によると，「日常の生活や学習の中で，筆者たちはよく地図を使用する．地図を読むには地図の言語を理解しなければならない．方向や縮尺，図例は地図の基本要素である．これらの要素が分かれば，筆者たちは地図と『対話』ができる」（蔡運龍主編 2005:20）とされている．また地理学習については，中学の教科書『地理』第1冊では「地理学習は筆者たちが故郷や祖国，世界の地理環境を認識する手助けとなり得る」「地理学習はその学習内容から『何か』『どこにあるか』『なぜ』等によって脳をよく働かせる」（人民教育出版社社会地理室編 1995:3）と記載されている．

台湾の範囲について，八年級の教科書『地理』下冊（蔡運龍主編 2006:56）を見ると，台湾島を中心に膨湖列島・花瓶嶼・彭佳嶼・棉花嶼・釣魚島・赤尾嶼・緑島（火焼島）・蘭嶼・七星岩の名称[5]が記載された地図が載せられている（図1）．また

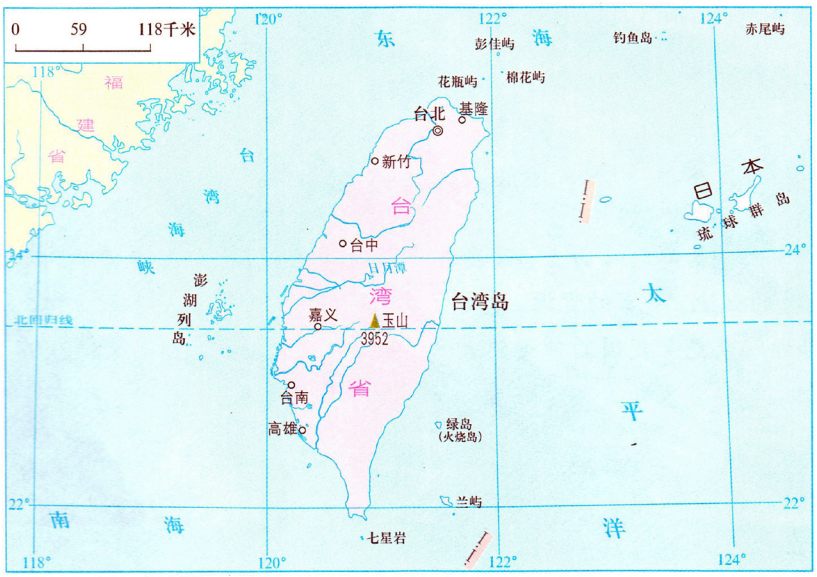

図 1　八年級教科書『地理』下冊 56 ページ「台湾省」

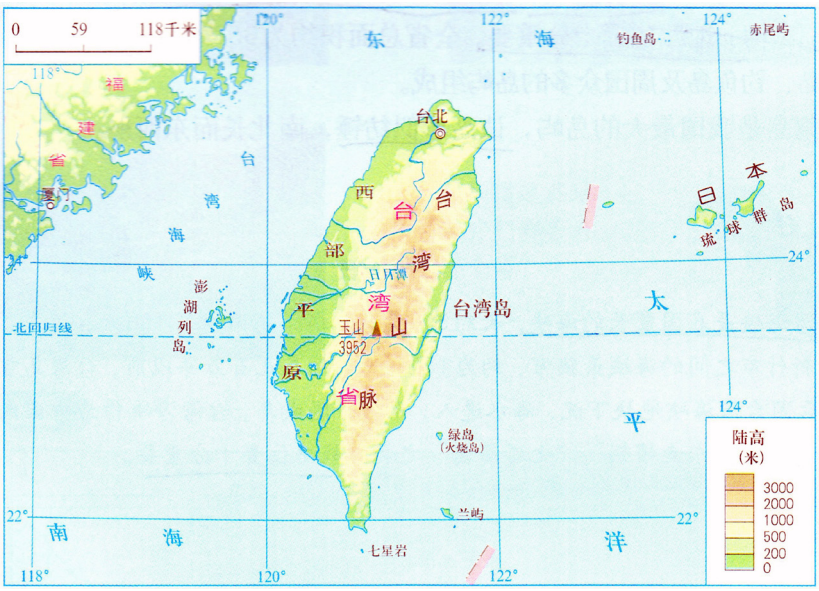

図 2　八年級教科書『地理』下冊 58 ページ「台湾省地形」

図 3　七年級教科書『地理』上冊 40 ページ「台湾海峡」

同教科書の 58 ページに掲載されている地図は，台湾島が中心となっている点は前ページと同様だが，その周辺島嶼については，膨湖列島・釣魚島・赤尾嶼・緑島（火焼島）・蘭嶼・七星岩の名称[6]が記載されている（図 2）．これらから，台湾島周辺の島嶼名の記載が統一されていないことが分かる．

一方，七年級の教科書『地理』上冊（蔡運龍主編 2005:40）の台湾海峡の地図（図 3）では，台湾島の太平洋側の島々が載せられていないばかりか，台湾島自体も全体が載せられていない．また

図 4　七年級教科書『地理』上冊 6 ページ「全国主要城市空気質量日報（2001 年 1 月 9 日）」

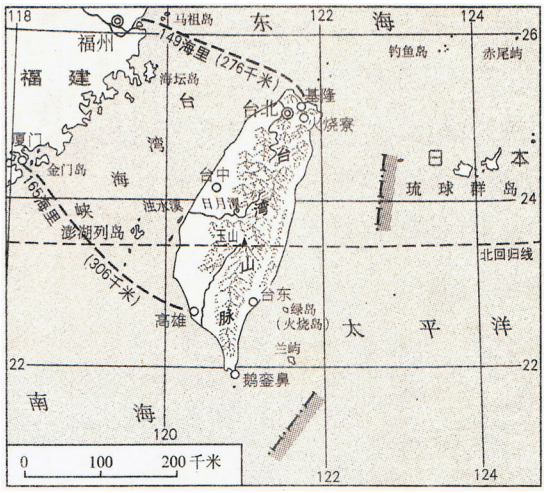

図 5　中学教科書『地理』第 4 冊 81-82 ページ
「台湾省地理位置図」

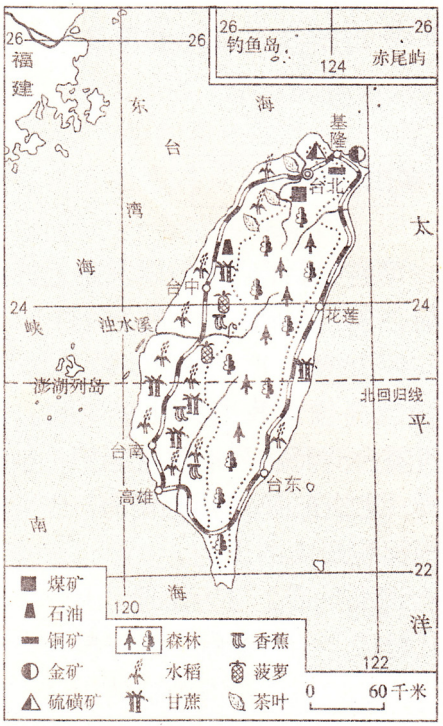

図 6　中学教科書『地理』第 4 冊 81-82 ページ
「台湾省森林，農産和鉱産的分布」

同書 50 ページに掲載されている中国全土の地図（図 4）には台湾島の周囲に点は描かれているが島名の記載はなく，どれがどの島か分からない．全国地図の八年級の教科書『地理』上冊（蔡運龍主編 2005:6）の自然環境や自然資源の単元では，台湾周辺の島々について触れた記述は見られない．中学の教科書『地理』第 4 冊（人民教育出版社地理社会室編 2001:81 - 82）では，台湾島とその周辺の島々，そして尖閣諸島の魚釣島から大正島までが台湾の範囲として記載されている（図 5，図 6）．参考までに中学の歴史教科書を開いてみると，『中国歴史』第 3 冊（人民教育出版社歴史室編 1994:72）では，「日中《馬関条約》1895 年；条約

の主な内容は，清国政府は遼東半島，台湾，膨湖列島を日本へ割譲する．清国政府は賠償金として銀2億両を日本に支払う」等が記載されているだけで，魚釣島等，他の台湾「離島」に関する注釈等は見られなかった。

2．社会教育としての地理／地図の位置づけ

社会教育としての地理教育について，何永彬（2001:69）は次のように述べている．

いわゆる社会地理教育は，社会人を対象とした地理環境の基礎知識を内容とする．各種の公共メディアを借りて展開する公益的な教育活動で，できる限りの条件下で，特定区域の地理の科学的発展や旅行の考察を展開するもので，その中には，社会地理に類別される出版物，特定のテーマを持ったシリーズものの書籍，教養のある人民のテキスト等の媒体を介して展開されるものもある．

Ⅲ　市販地図にみる台湾の範囲

中国の学校教育では，台湾の範囲を次のように述べている．「台湾省は我が国の東南海域に位置していて，東に太平洋を臨み，西は台湾海峡を隔てて福建省を望んでいる．また北は東シナ海，南は南シナ海に面しているという大変重要な地理的位置にある．台湾省の総面積は約36,000㎢で，台湾島，膨湖列島，魚釣島および周辺の島々から構成されている」(蔡運龍主編 2006:57)．一方社会教育では，「台湾は我が国の東南沿海の大陸棚上にあり，我が国最大の島である．台湾は台湾本島及び蘭嶼，緑島，魚釣島等21個の附属島嶼，膨湖列島の64個の島嶼を含み，島の総数は224個に上る．そのうち台湾本島の面積は35,873㎢である」（本刊編輯部 1999：巻首語）と述べられている．学校教育であれ社会教育であれ，両者は台湾島と膨湖列島を中心として，その周辺島嶼を台湾の範囲として位置づけている．

それでは，社会教育の一環として市販されている書籍に載せられている地図を見て，上述した台湾の範囲が容易に認識できるだろうか．前章で述べたような「学校教育」を受けた人々がある地域の情報を得たい場合，インターネット以外の手段では，書店に並んでいる書籍を手に取ると思われる．また近年中国の経済発展に伴い，一般市民が余暇に旅行する機会が増えたことにより，地図の載っている旅行ガイドブックは，多くの人々が目にするものであり，「社会教育」的な地図教育の役割の一端を担っていると考えられる．そこで主な対象を旅行関連書籍として，江西省南昌市内の大手書店である「中華書店」の旅行関連書籍コーナーに並んでいる書籍の地図について調査を実施した．

調査は2010年12月から2011年1月にかけて，主に江西省南昌市内の中華書店で販売されていた旅行関連書籍を対象に実施した．また筆者が勤めていた江西外語外貿職業学院図書館所蔵の書籍も対象とした．2011年1月までに確認できた地図は，合計44冊である．（表1）

今回調査した44冊の書籍（表1）は,「台湾（省）」の項目およびその地図があるもので，実際に出版されている旅行関連書籍は更に多い（図7）．

表1で挙げた書籍に載せられている地図からは，「台湾（省）」の範囲が統一されていないことが分かる（表2）．これは紙面の都合という見方もできるが，出版書籍が社会教育の一端を担っていると考えた場合，それを手にする人々へ与える影響を考慮しなければならない．すなわち彼らの認識する「台湾（省）」の範囲が，統一されていないということが考えられる．

今回調査した出版書籍44冊のうち，3冊は台湾（省）の項目内に台湾島の地図すら載せられていなかった．さらに中国が領有権を主張している魚釣島については，44冊のうちの過半数を占める24冊に記載されていなかった．尖閣諸島を構成している「南小島（中国語名同じ)」「北小島（中国語名同じ)」「久場島（中国語名黄尾嶼)」「大正島（中国語名赤尾嶼)」それぞれについても，魚釣島と同様のことが確認された（表2）．

Ⅳ　おわりに

学校教育として中学の地理教育について，黄承華（2011：122）は次のように述べている．

我々はこれらの具体的な数値（データ）の現象を通して学生を導かなければならない．した

表 1 江西省南昌市内「中華書店」および江西外語外貿職業学院図書館で確認できた地図

	書籍名	編著者名	発行所	発行年
1	中国地図冊	成都地図出版社	成都地図出版社	1997年
2	新世紀交通旅遊図冊	国家计委综合运输研究所	中国旅游出版社	1999年
3	中華人民共和国地図集	总参谋部测绘局	星球地图出版社	2000年
4	錦銹中華交通旅遊図集	中国测绘研究院	人民交通出版社 中国地铁出版社	2001年
5	全国自駕車交通旅遊図集	人民交通出版社	人民交通出版社	2001年
6	台湾省地図	高秀静	中国地図出版社	2001年
7	中国道路地図集	福建省地図出版社	福建省地図出版社	2001年
8	中国地図冊	向紅艶	中国地図出版社	2001年
9	中国分省交通詳図	人民交通出版社	人民交通出版社	2001年
10	中国高速公路及城郷公路網地図冊	西安地図出版社	西安地図出版社	2001年
11	中国公路網速査地図集	人民交通出版社	人民交通出版社	2001年
12	中国卡車司機地図集	山東省地図出版社	山東省地図出版社	2001年
13	中国旅遊地図冊	山東省地図出版社	山東省地図出版社	2001年
14	中国旅遊指南台湾	中国旅遊指南委員会	中華書局出版社	2001年
15	中国司機行車使用地図集	中国旅遊出版社	中国旅遊出版社	2001年
16	中華世紀遊	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2001年
17	中国旅遊必備	王正華	中国旅游出版社	2002年
18	English-Chinese TOURIST GUIDEBOOK OF CHINA 英漢対照　中国旅遊指南	紀世昌	湖南地図出版社	2003年
19	走遍中国旅遊交通図	劉寅年・陳宝蕙	人民交通出版社	2003年
20	旅遍中国（下）	邢涛・紀江紅	北京出版社	2004年
21	中国城市商旅	山東省地図出版社	山東省地図出版社	2004年
22	中国假日旅遊自助図冊	人民交通出版社	人民交通出版社	2004年
23	中国知識地図冊	山東省地図出版社	山東省地図出版社	2004年
24	図説中国	五州伝播出版社	五州伝播出版社	2005年
25	中国旅遊交通図冊	中国旅游出版社	中国旅游出版社	2005年
26	中華旅遊地図冊	广东省地图出版社	广东省地图出版社	2005年
27	台湾旅遊手冊	根志優	華文出版社	2007年
28	図説中国	荊孝敏	五州伝播出版社	2007年
29	中国国家地理精華（図説天下　国家地理系列）	中国国家地理精華編集員会	吉林出版集団有限責任公司	2007年
30	中国	钟欣	外文出版社	2009年
31	中国高速公路営運地図冊	地冶出版社	地冶出版社	2009年
32	中国公路網及行車里程図冊	西安地図出版社	西安地図出版社	2010年
33	中国旅遊交通地図集	中国天域北斗図書有限公司	中国旅游出版社	2010年
34	司機専用中国交通地図集	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2011年
35	中国高速公路及城郷公路網地図集	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2011年
36	中国高速公路及分省交通地図集	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2011年
37	中国高速公路及路網詳査地図集	中国地図出版社	中国地図出版社	2011年
38	中国高速公路行車指南	福建省地図出版社	福建省地図出版社	2011年
39	中国高速公路行車指南	人民交通出版社	人民交通出版社	2011年
40	中国旅遊地図冊	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2011年
41	中国実用交通旅遊地図集	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2011年
42	中国物流専用地図冊	地冶出版社	地冶出版社	2011年
43	中国行車地図	人民交通出版社	人民交通出版社	2011年
44	中国自助旅遊図冊	湖南地図出版社	湖南地図出版社	2011年

（筆者調査により作成）.

図 7 「中華書店」で確認できた旅行関連書籍

表 2 台湾省関連地名の記載の有無

記載の有無	○	×	合計
台湾地図	41	3	44
澎湖列島	42	2	44
花瓶嶼	32	12	44
綿花嶼	31	13	44
彭佳嶼	35	9	44
釣魚島	20	24	44
南小島	11	33	44
北小島	8	36	44
黄尾嶼	12	32	44
赤尾嶼	20	24	44
緑　島	41	3	44
蘭　嶼	41	3	44
高石台	4	40	44
七星岩	38	6	44
琉球嶼	36	8	44

（筆者調査により作成）.

がって社会主義祖国に対する情熱的な愛国心を増強することで，社会主義祖国の強大さと隆盛，民族の希望と団結に導いていく．また我が国の領土と主権を講じるときに，我々は具体的な事情を通して領土と主権の侵犯を許さないことを説明する際に，我々は先日発生した魚釣島の実例を十分利用できる．これらの事例の分析と解釈を通して，学生を祖国領土の保護と主権統一の意識を強めるよう導き，民族の誇りと団結力を増強させる．

また地図教育の定着について，白地図は思考と知識を並列した訓練に有効である．しかし高校 1 年生のレベルでは，地図帳を利用しての地名探しは比較的容易だとしても，白地図にかき込む場合はそれ以上に困難をともなう．（東晧伝 1971：32, 34）これを踏まえると，中国の人々が地図を見て「台湾」の範囲を理解しようとするとき，その地図の記載が統一されていなければ，どの地図を見るかで異なる理解を得るであろう．

中国側から魚釣島のことを言うとき，中国語で釣魚「島」と言っているのをよく耳にする．一方日本では魚釣島を含む尖閣「諸島」と言っている．日本語からは魚釣島は尖閣諸島の一島にすぎないことが分かる．もちろん中国語でも島々を表す語として「島嶼 dǎ oyǔ」という語がある．しかしこれまで見てきたように，中国語で「釣魚島 diàoyúdǎ o」と聞いてきた現地の人々は，現在日中間で問題になっている地域は，位置がはっきり分からない一島をイメージしていると考えられる．

本稿では中国における地図教育を基にして，現地で市販されている地図を社会教育の一環と位置づけて，そこから見える台湾の範囲を探ってみた．その結果，台湾島はその大きさから認識することが容易であるが，地図を一見しただけでは尖閣諸島（魚釣島）を識別することは困難だということが明らかになった．言葉の上でも中国語の「釣魚島」では，そこにはあたかも一つの島しか存在しないような感覚に陥ってしまうことが分かる．

以上のことから，中国の人々による“台湾”というのは中国の一省ではあるが，その範囲は各人の見る地図によって異なり，尖閣諸島についても実はそこに島が“ある”ということを「知っているだけ」にすぎないということが考えられる。つ

まり中国側からすれば“琉球”≒「台湾」という認識を持ってはいても，その範囲については明確ではないということが言えるだろう．

今後は台湾・沖縄でも同様の調査を実施して，日本と中国・台湾の“琉球”に関する考察を，さらに深めていきたいと考えている．

本稿を執筆するにあたり，江西外語外貿職業学院外語系の学生（当時）劉儀さん，危偉さんには，書籍の調査と集計を手伝っていただきました．また大阪産業大学留学生の黄泳瀚さんには，中国語文献の日本語訳をチェックしていただきました．その他多くの方々に大変お世話になりました．末尾になりますが，記して感謝申し上げます．

注

1) 中国では筆者の経験上，政治に関わる事について現地の人は本音を語らない．尖閣諸島中国漁船衝突事件以降筆者が行った「フール」の調査でも，このことを体験した．
2)「領土」というよりは，自分の認識している地域の範囲を指す．
3)「親の自分よりも子供には良い人生を歩ませたい」という人々の子供世代は，筆者の学生として出会っている．彼らの親世代は日本でいう「義務教育」までしか終えていない人々が相当数いる．
4) 中学卒業の学歴が多い，現在の大学生の親世代．
5) 島名は原文のまま記載した．
6) 5) に同じ．

文献

東　晧伝（1971）:「地図教育の課題」,『社会科研究』全国社会科教育学会，p26-40.

本刊編輯部（1999）: 認識台湾　関注台湾，海洋世界 .

蔡運龍主編（2005a）: 地理，義務教育課程標準実験教科書，七年級，上冊．商務印書館・星球地図出版社，北京市 .

蔡運龍主編（2005b）: 地理，義務教育課程標準実験教科書，八年級，上冊．商務印書館・星球地図出版社，北京市 .

蔡運龍主編（2006）: 地理，義務教育課程標準実験教科書，八年級，下冊．商務印書館・星球地図出版社，北京市 .

何永彬（2001）: 談地理教育及公衆地理教育途径．雲南地理環境研究，第 13 巻増刊，67-69.

黄承華（2011）:「中学地理教育中的愛国主義教育」『知識経済』1 期，重慶市科学技術協会，重慶市，p122.

人民教育出版社歴史室編（1994）: 中国歴史，九年義務教育三年制初級中学教科書, 第三冊．人民教育出版社, 北京市 .

人民教育出版社社会地理室編（1995）: 地理，九年義務教育三年制初級中学校教科書，第一冊．人民教育出版社，北京市 .

人民教育出版社地理社会室編（2001）: 地理，九年級義務教育三年制初級中学教科書，第四冊．人民教育出版社，江西省吉安市 .